

# RF μチューニングキット組み立てマニュアル

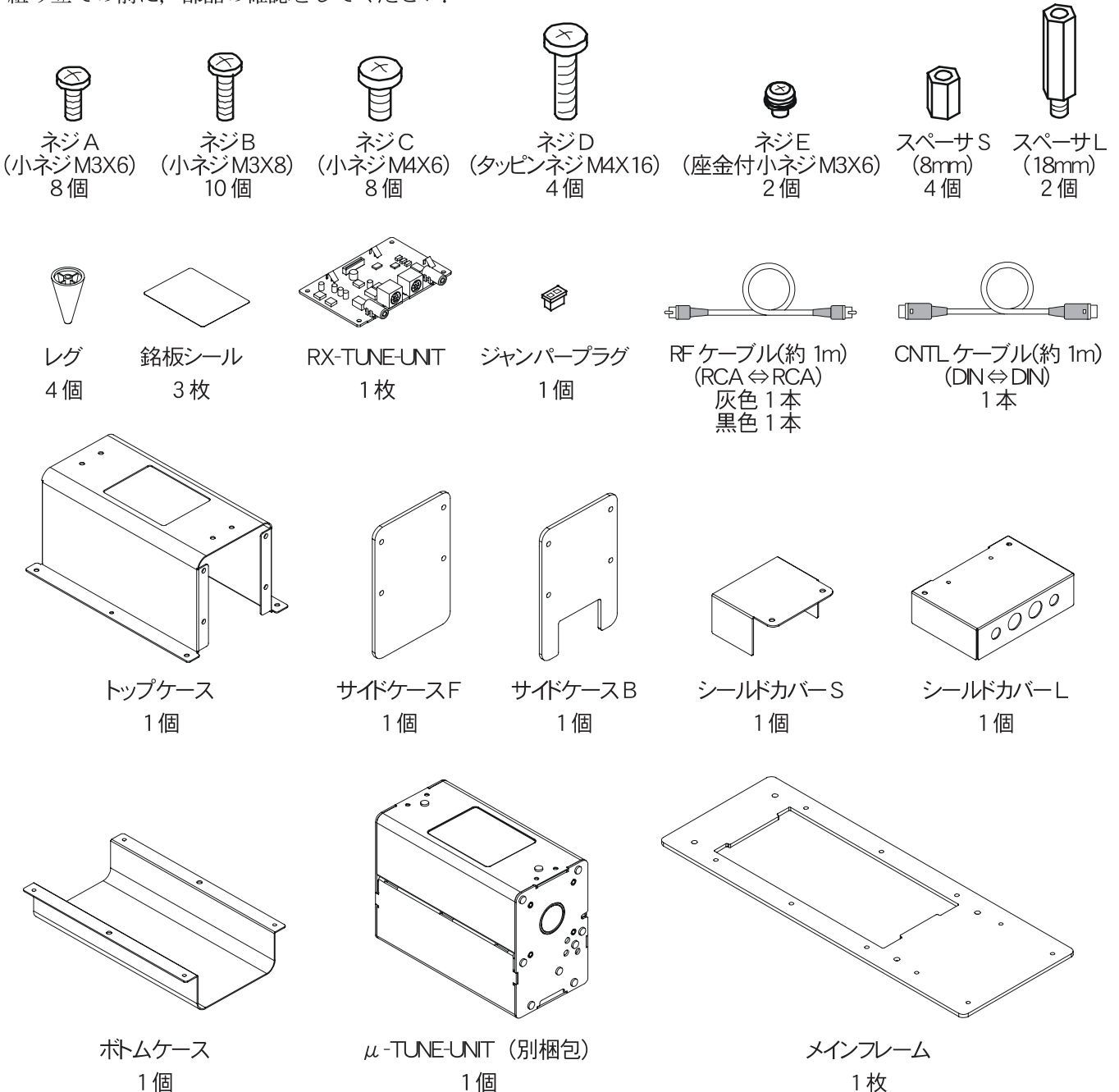
この度は、「RF μチューニングキット」をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。  
組み立ての前に、この組み立てマニュアルをよくお読みください。また、読み終わりましたら必ず保管してください。

## 安全上の注意（必ずお読みください）

- μ-TUNE-UNITは分解や改造をしない。  
封印シールを剥がしたり分解や改造をしないでください。故障の原因になります。
- 小さな部品の取り扱いに注意する。  
口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 組み立て時に、指をはさまないように注意する。  
ケガの原因になります。
- ケーブル類を無理に引張ったり、はさんだりしない。  
ケーブル類が断線し、誤動作や故障の原因になります。
- ぐらついた不安定な場所で組み立てをしない。  
落ちたり倒れたりして、ケガや故障の原因になります。
- 衝撃を与えない。  
精密機器のため強い衝撃を与えると故障の原因になります。

## 部品リスト

組み立ての前に、部品の確認をしてください。



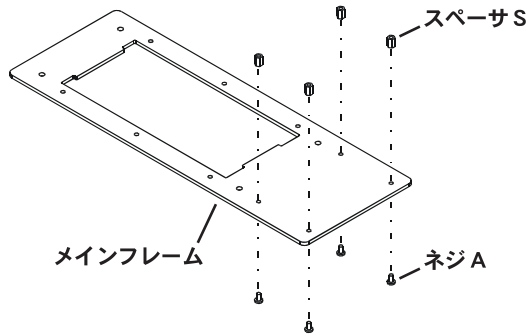
## ◎下記の工具をご用意ください。

- ・ネジ山に合ったプラスドライバー
- ・プライヤー等（スペーサの取り付け時に使用）

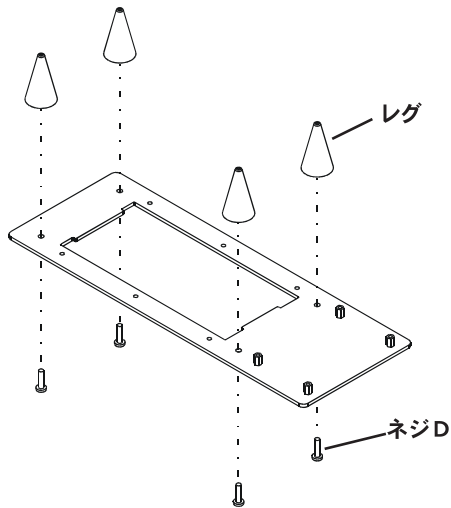


## 組み立て方

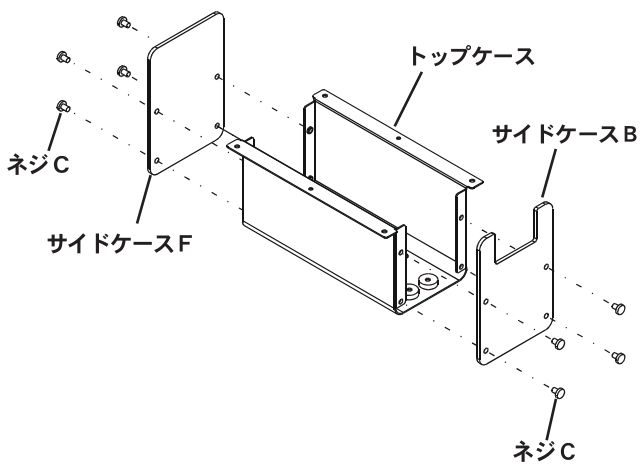
1. メインフレームの裏面に、スペーサS (4本) をネジA (4個) によって取り付けます (メインフレームに一部塗装がされていない面が裏面になります)。



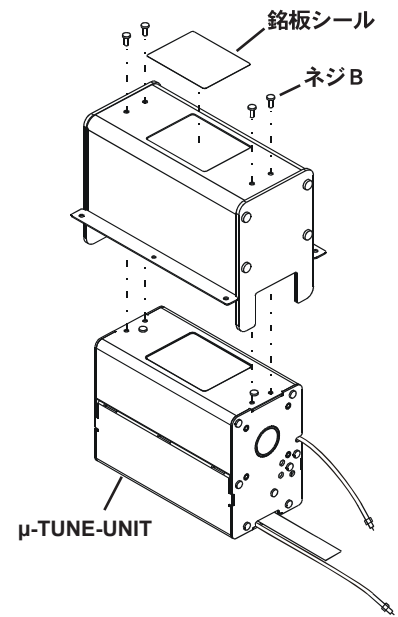
2. メインフレームに、レグ (4個) をネジD (4個) によって取り付けます。



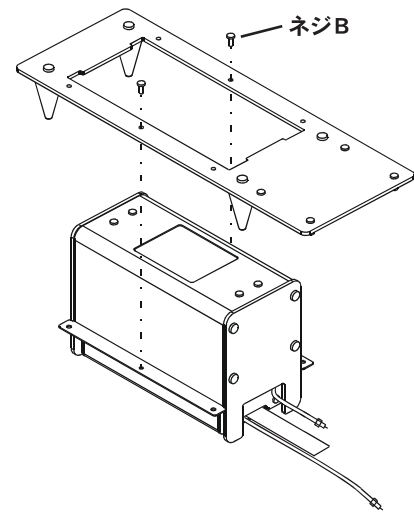
3. トップケースに、サイドケースFとサイドケースBをネジC (8個) によって取り付けます。



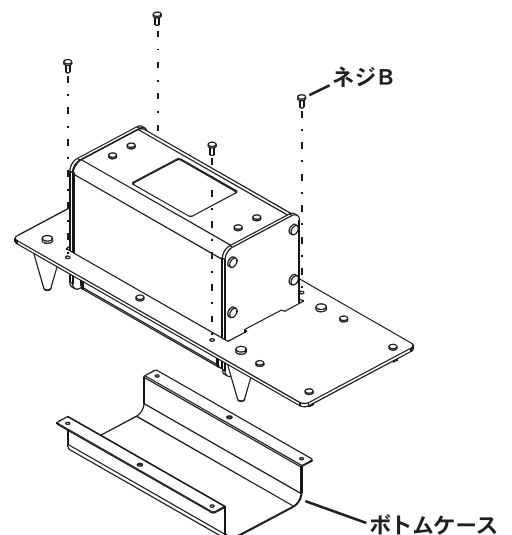
4. トップケースのくぼみの部分に銘板シールを貼ります。 $\mu$ -TUNE-UNITにトップケースを被せネジB (4個) によって取り付けます。



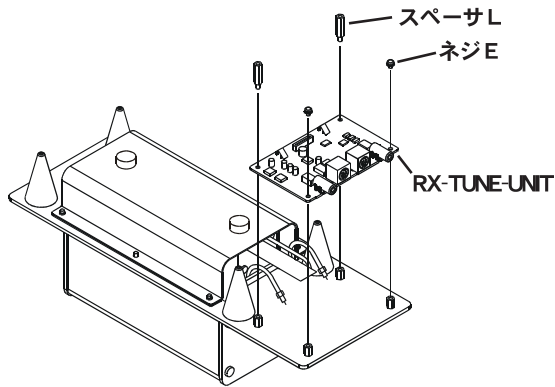
5. 手順2. で組み立てたメインフレームに、手順4. で組み立てた $\mu$ -TUNE-UNITをネジB (2個) によって取り付けます。



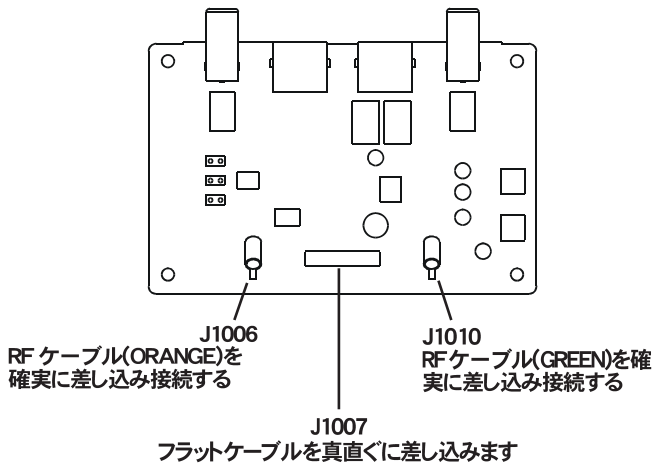
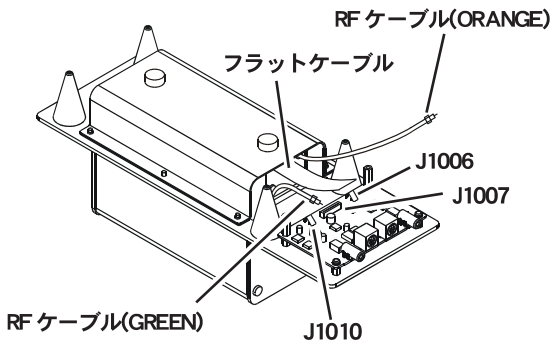
6. ボトムケースをネジB (4個) によって取り付けます。



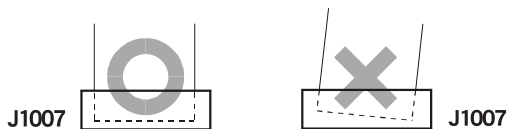
7. 裏側にし、RX-TUNE-UNITをネジE (2個) とスペーサL (2個) によって取り付けます。



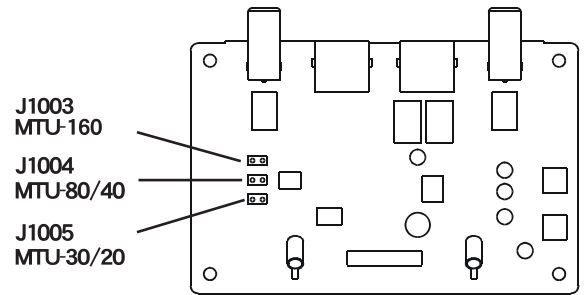
8. RFケーブル (ORANGE) をJ1006に差し込み、さらにRFケーブル (GREEN) をJ1010に差し込みます。次にフラットケーブルをRX-TUNE-UNITのJ1007に差し込みます。



**注意:** フラットケーブルを真直ぐに差し込み接続します。斜めに差し込むと各電極がショートして故障の原因になります。また、極端に折り曲げると断線するおそれがありますので、取り扱いに注意してください。

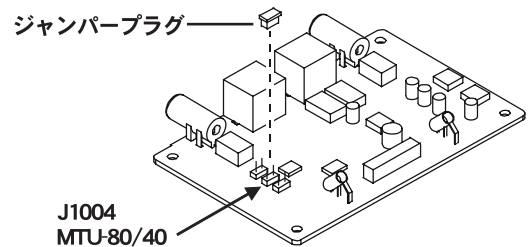


9. 名板シールに記載されている型番を確認し(例: MTU-80/40), 同じ型番がシルク印刷されているジャンパーピンにジャンパープラグを差し込みます。



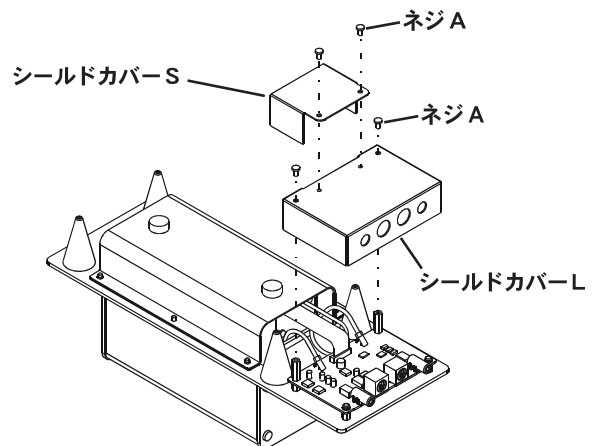
- ◎ 例えば「MTU-80/40」の場合は、「MTU-80/40のJ1004」にジャンパープラグを差し込みます。

**ご注意:** ジャンパープラグを差し間違えると誤動作しますので、よく確認してください。もし差し間違えて電源を入れてしまった場合は、電源を一旦切り、ジャンパープラグを正しい位置に差し込んでから、もう一度電源を入れてください。



10. RX-TUNE-UNITにシールドカバーLを被せネジA (2個) によって取り付けます。次に、ケーブル引き込み部分にシールドカバーSを被せ、ネジA (2個) によって取り付けます。

**ご注意:** シールドカバーを取り付け時に、ケーブルをはさんだ状態でネジを締め付けると、ケーブルの被覆に傷付けたり、断線したりすることがありますので、よく確認してください。



11. 以上で組み立ては完成です。ネジ等の閉め忘れがないか、部品が残っていないかもう一度よく確認してください。確認後、次はFT-2000と接続します。接続の仕方は、別紙の「RF μチューニングキットオペレーションマニュアル」を参照してください。

